

STAGE+を楽しむ(288)(HP 収載)

—ジャック・ルーシェ・トリオ—

1. 始めに

前報(287)に引き続き、STAGE+のジャック・ルーシェ・トリオの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のジャック・ルーシェ・トリオの演奏を選びました。

ジャック・ルーシェ・トリオがバッハを演奏

ミュンヘン、ガスタイク (1989 年)

収録日: 1989 年 7 月 17 日

フランスのピアニスト・作曲家のジャック・ルーシェはクラシック音楽をジャズにアレンジし、スタイリッシュな音楽を制作、そして演奏し話題となっていました。特に彼が力を入れていたのがバッハ作品のジャズアレンジで、本映像でもミュンヘン・フィルハーモニーでライブ録音されたバッハ作品のコンサートの模様をご覧ください。ルーシェがピアノを演奏し、ヴィンセント・シャルボニエがベース、アンドレ・アルピノがパーカッションを担当しています。洗練された音楽、卓越した技術とセンスの良さが結実した世界をお楽しみください。

ソリスト:

ジャック・ルーシェ (ピアノ)、ヴィンセント・シャルボニエ (コントラバス)、アンドレ・アルピノ (ドラム)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ

前奏曲とフーガ第 5 番ニ長調 BWV 850 (ジャック・ルーシェ編)

イタリア協奏曲へ長調 BWV 971 (ジャック・ルーシェ編)

パストラール へ長調 BWV 590 (ジャック・ルーシェ編)

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第 1 番ロ短調 BWV 1002 より第 7 曲:

ブレー (ジャック・ルーシェ編、ガヴオット ロ短調)

《心と口と行いと生活で》BWV 147 より〈主よ、人の望みの喜びよ〉

(ジャック・ルーシェ編)

管弦楽組曲第 3 番ニ長調 BWV 1068 より第 4 曲: ガヴオット

(ジャック・ルーシェ編)

ブランデンブルク協奏曲第 5 番ニ長調 BWV 1050 (ジャック・ルーシェ編)

コラール《目覚めよと、われらに呼ばれる物見らの声》BWV 140
(ジャック・ルーシェ編)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への **Crystal EpY-G** の接続を継続し、PC の仮想アース **Crystal E Jtune** に **Crystal E** を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に **OPT ISO BOX** を適用し、**OPT ISO BOX** の AC アダプターの DC ケーブルに **FX Audio** の **Petit Susie Solid State** を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

さらに今回から、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続には **OPT ISO BOX** に代って適用した **LAN iPurifier Pro** の電源を **iPowe2** に交換しています。

今回は、PC の受信から **GPS-777** クロック入力 **SWD-DA20** に送り出しています。

バッハの原曲はいずれもお馴染みのものですが、ジャズの編曲になるとこういうことになるかと説得力があります。

ピアノとベースとドラムスが、切れのよい掛け合いで緩急取り混ぜた演奏です。ブランデンブルク協奏曲第5番では、長いドラムスのソロがあり、あざやかなスティックさばきを見せていましたし、コラール《目覚めよと、われらに呼ばれる物見らの声》では、ベースのソロの音階も明瞭でした。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用した結果、バッハの原曲からジャズへの編曲の切れの良いトリオの掛け合いの演奏が聴けました。

以上